

## —スタッフ紹介—

| 役 職                  | スタッフ名 |
|----------------------|-------|
| 呼吸器センター長<br>兼呼吸器外科部長 | 大森 謙一 |

## —概要—

2017年4月から大森が呼吸器外科を担当した。当科は呼吸器外科学会専門医制度による認定修練施設である。対象疾患は肺癌、転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍など、胸部の腫瘍性病変の他、気胸、膿胸や胸膜炎である。

## —実績—

### 【外来診療】

外来診療日は月、木であった。2018年4月から2019年3月末までの外来診療実績は、外来延べ患者数は858名、初来患者数は75名、紹介患者数は61名、逆紹介患者数は60名であった。

### 【入院診療】

入院病床の定数は3床であった。術後の帰室病棟は多くの場合8階海病棟で、HCUか個室を使わせていただいた。ICU帰室は2例であった。2018年4月から2019年3月末までの入院診療実績は、入院患者数はのべ832名、平均在院日数は13.5日であった。

### 【手術実績】

中央手術室での呼吸器外科の割り当ての手術枠は、ラダー研修日を除く火曜日の1日枠が手術枠であった。2018年4月から2019年3月末までの手術件数は58件であった。疾患別の手術件数の内訳は表1に示した。特記事項として、体外循環を併用した右肺全摘術が1例、膿胸に対する開窓術が1例あった。手術応援もしくは共同手術として、大阪大学呼吸器外科医局から38名、救命診療科から10名、心臓血管外科から6名、消化器外科2名、口腔外科2名、耳鼻咽喉科1名、呼吸器内科1名、臨床研修部から12名、その他3名、の先生方(延べ人数)に手術を手伝っていただいた。手術器材の更新なし。

### 【肺癌に対する薬物療法、その他】

外来での薬物療法は、UFT2例 イレッサ1例 タグリッソ1例に開始した。開始時入院を要する抗がん剤治療は3例に導入した。放射線治療は2例に行った。1例は定位放射線治療を他施設に依頼した。

気管支鏡検査は4例に施行した。8月以降は呼吸器内科、岩嶋医師に依頼した。

表1 疾患別の手術件数(2018年4月1日～2019年3月31日)

| 疾 患          | 件 数 |
|--------------|-----|
| 肺癌           | 24  |
| 転移性肺腫瘍       | 5   |
| 縦隔腫瘍         | 0   |
| 炎症性肺疾患       | 1   |
| 膿胸           | 3   |
| 嚢胞性肺疾患(含 気胸) | 16  |
| 胸部外傷         | 1   |
| その他の呼吸器手術    | 8   |
| 全手術件数        | 58  |
| 胸腔鏡下または併用手術  | 37  |
| 手術死亡         | 0   |

## —今年度の成果と反省点—

呼吸器外科手術に関して、1/週の手術枠を維持した。手術症例の約半数を占める肺悪性腫瘍症例に必要な術前術後の抗がん剤治療、放射線治療に対応するために、肺腫瘍内科、呼吸器内科との定期カンファレンスを行った。また、カンファレンスでは内科症例の検討に参加し、気管支鏡検査にも積極的に協力した。

## —来年度への抱負—

関係各科と協力を深め、呼吸器疾患の外科治療だけでなく診断領域においても積極的に対応していく。